

資料 2

方財小学校におけるいじめの防止等のための職務別ポイント

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">● <u>いじめの防止等のための対策に関する基本的な方針を定める。</u>● <u>複数の教職員、心理、福祉等に関する専門的な知識を有する者その他の関係者により構成されるいじめの防止等の対策のための組織を設ける。</u><ul style="list-style-type: none">・ いじめへの対応は、校長を中心に一致協力体制を確立することが重要。・ いじめに関する情報は特定の教職員が抱え込むのではなく、「組織」で情報共有し組織的に対応。 |
| <ul style="list-style-type: none">・ いじめに係る情報が教職員に寄せられた時は、教職員は、他の業務に優先して、かつ、即日、当該情報を速やかに学校いじめ対策組織に報告し、学校の組織的な対応につなげる。 |

(1) いじめの防止のための措置

《学級担任等》

- ・ 日常的にいじめの問題について触れ、「いじめは人間として絶対に許されない」との雰囲気や学級全体に醸成する。
- ・ はやしたてたり見て見ぬふりをしたりする行為もいじめを肯定していることを理解させ、いじめの傍観者からいじめを抑止する仲裁者への転換を促す。
- ・ 一人一人を大切にしたり分かりやすい授業づくりを進める。
- ・ 教職員の不適切な認識や言動が、児童を傷つけたり、他の児童によるいじめを助長したりすることのないよう、指導の在り方には細心の注意を払う。

《養護教諭》

- ・ 学校保健委員会等の学校の教育活動の様々な場面で命の大切さを取り上げる。

《生徒指導担当教員》

- ・ いじめの問題について校内研修や職員会議で積極的に取り上げ、教職員間の共通理解を図る。
- ・ 日頃から関係機関等を定期的に訪問し、情報交換や連携に取り組む。

《管理職》

- ・ 全校集会などで校長が日常的にいじめの問題について触れ、「いじめは人間として絶対に許されない」との雰囲気や学校全体に醸成する。
- ・ 学校の教育活動全体を通じた道徳教育や人権教育の充実、読書活動・体験活動などの推進等に計画的に取り組む。

- ・ 児童が自己有用感を高められる場面や、困難な状況を乗り越えるような体験の機会などを積極的に設けるよう教職員に働きかける。
- ・ いじめの問題に児童自らが主体的に参加する取組を推進する。（例えば、児童会によるいじめ撲滅の宣言や相談箱の設置など）

（２）早期発見のための措置

《学級担任等》

- ・ 日頃からの児童の見守りや信頼関係の構築等に努め、児童生徒が示す小さな変化や危険信号を見逃さないようアンテナを高く保つ。
- ・ 休み時間・放課後の児童との雑談や日記等を活用し、交友関係や悩みを把握する。
- ・ 個人面談や家庭訪問の機会を活用し、教育相談を行う。

《養護教諭》

- ・ 保健室を利用する児童との雑談の中などで、その様子に目を配るとともに、いつもと何か違うと感じたときは、その機会を捉え悩みを聞く。

《生徒指導担当教員》

- ・ 定期的なアンケート調査や教育相談の実施等に計画的に取り組む。
- ・ 保健室やスクールカウンセラー等による相談室の利用、電話相談窓口について周知する。
- ・ 休み時間や昼休みの校内巡視や、放課後の校区内巡回等において、児童が生活する場の異常の有無を確認する。

《管理職》

- ・ 児童及びその保護者、教職員がいじめに関する相談を行うことができる体制を整備する。
- ・ 学校における教育相談が、児童の悩みを積極的に受け止められる体制となり、適切に機能しているか、定期的に点検する。

（３）いじめに対する措置

① 情報を集める

《学級担任等、養護教諭》

- ・ いじめと疑われる行為を発見した場合、その場でその行為を止める。（暴力を伴ういじめの場合は、複数の教員が直ちに現場に駆けつける。）
- ・ 児童や保護者から「いじめではないか」との相談や訴えがあった場合には、真摯に傾聴する。
- ・ 発見・通報を受けた場合は、速やかに関係児童から聞き取るなどして、いじめの正確な実態把握を行う。

- ・ その際、他の児童の目に触れないよう、聞き取りの場所、時間等に慎重な配慮を行う。
- ・ いじめた児童が複数いる場合は、同時刻にかつ個別に聞き取りを行う。

《「いじめの防止等の対策のための組織」（以下、「組織」という）》

※ いじめ防止対策推進法第22条の「学校におけるいじめの防止等の対策のための組織」をいう。当該学校の複数の教職員に加え、心理・福祉の専門家、弁護士、医師、教員

：

警察経験者などから構成されることが考えられる。なお、「複数の教職員」については、学校の管理職や主幹教諭、生徒指導担当教員、学年主任、養護教諭、学級担任等から、学校の実情に応じて決定。

- ・ 教職員、児童、保護者、地域住民、その他からいじめの情報を集める。
- ・ その際、得られた情報は確実に記録に残す。
- ・ 一つの事象にとらわれ過ぎず、いじめの全体像を把握する。

② 指導・支援体制を組む

《「組織」》

- ・ 正確な実態把握に基づき、指導・支援体制を組む。（学級担任等、養護教諭、生徒指導担当教員、管理職などで役割を分担）
 - いじめられた児童や、いじめた児童への対応
 - その保護者への対応
 - 教育委員会や関係機関等との連携の必要性の有無 等
- ・ ささいな兆候であっても、いじめの疑いがある行為には、早い段階からの確実に関わりをもつことが必要。
- ・ 児童の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるおそれがあるときは、直ちに所轄警察署に通報し、適切に援助を求める。
- ・ 現状を常に把握し、随時、指導・支援体制に修正を加え、「組織」でより適切に対応する。

③-A 児童への指導・支援を行う

※「組織」で決定した指導・支援体制に基づき、指導・支援を行う。

《いじめられた児童に対応する教員》

- ・ いじめられた児童やいじめを知らせてきた児童の安全を確保するとともに、いじめられた児童に対し、徹底して守り通すことを伝え、不安を除去する。
- ・ いじめられた児童にとって信頼できる人（親しい友人や教職員、家族、地域の人等）と連携し、いじめられた児童に寄り添い支える体制をつくる。
- ・ いじめられている児童に「あなたが悪いのではない」ことをはっきりと伝えるなど、自尊感情を高めるよう留意する。

《いじめた児童生徒に対応する教員》

- ・ いじめた児童への指導に当たっては、いじめは人格を傷つけ、生命、身体又は財産を脅かす行為であることを理解させ、自らの行為の責任を自覚させる。
- ・ 必要に応じて、いじめた児童を別室において指導したり、出席停止制度を活用したりして、いじめられた児童が落ち着いて教育を受ける環境の確保を図る。
- ・ いじめる児童に指導を行っても十分な効果を上げることが困難である場合は、所轄警察署等とも連携して対応する。
- ・ いじめた児童が抱える問題など、いじめの背景にも目を向ける。
- ・ 不満やストレス（交友関係や学習、進路、家庭の悩み等）があっても、いじめに向かうのではなく、運動や読書などでの的確に発散できる力を育む。

《学級担任等》

- ・ 学級等で話し合うなどして、いじめは絶対に許されない行為であり、根絶しようという態度を行き渡らせるようにする。
- ・ いじめを見ていた児童に対しても、自分の問題として捉えさせるとともに、いじめを止めさせることはできなくても、誰かに知らせる勇気をもつよう伝える。
- ・ はやしたてるなど同調していた児童に対しては、それらの行為はいじめに加担する行為であることを理解させる。

《「組織」》

- ・ 状況に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、警察官経験者等の協力を得るなど、対応に困難がある場合のサポート体制を整えておく。
- ・ いじめが解決したと思われる場合でも、継続して十分な注意を払い、折りに触れ必要な支援を行う。
- ・ 指導記録等を確実に保存し、児童の進学・進級や転学に当たって、適切に引き継ぎを行う。

③－B 保護者と連携する

《学級担任を含む複数の教員》

- ・ 家庭訪問（加害、被害とも。また、学級担任を中心に複数人数で対応）等により、迅速に事実関係を伝えるとともに、今後の学校との連携方法について話し合う。
- ・ いじめられた児童を徹底して守り通すことや秘密を守ることを伝え、できる限り保護者の不安を除去する。
- ・ 事実確認のための聴き取りやアンケート等により判明した、いじめ事案に関する情報を適切に提供する。

資料3

いじめられた児童・いじめた児童に見られるサイン

1 いじめられた児童のサイン

いじめられた児童は自分から言い出せないことが多いことから、学校における日常生活の中で児童をきめ細かく観察し、どんな小さな変化も見過ごさないことが大切である。

場 面	サインと思われる行動等
登校時 朝の活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 遅刻や欠席が多くなり、その理由を明確に言わない。 ○ 朝のあいさつが元気よく出来ない。 ○ 教師があいさつをしてもあいさつを元気よく返さない。 ○ 登校後、一人でぼんやりしていることが多い。 ○ 健康観察で体調不良を訴えることが多い。 ○ 教師と視線を合わせず、うつむいていることが多い。
授業中	<ul style="list-style-type: none"> ○ よく保健室やトイレに行くようになる。 ○ 手を挙げて発表することが少なくなる。 ○ グループ学習等で孤立しがちになる。 ○ 意見や発表に対して笑われたり、責められたりする。 ○ 教師の話をもろもりと聞いていることが多く集中力に欠けることが多い ○ 学習用具の忘れ物が目立つようになる。 ○ 教科書やノートに汚れが目立つ。
休み時間	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちと遊ばず、一人でいることが多い。 ○ 係の仕事などを一人でさせられている。 ○ 複数の友だちと遊んだりふざけ合ったりしている表情がさえない。 ○ 鬼ごっこやドッジボールなどの遊びの中で、不合理に集中されることが多い。 ○ 仲間はずれにされ、遊びの中に入れないことが多い。 ○ 用もない場所にいることが多い。 ○ 体調が悪いことを理由に保健室にいることが多い。 ○ 衣服の汚れ等が目立つ。
給食時間	<ul style="list-style-type: none"> ○ 給食を残すことが多くなる。 ○ 友だちと楽しい雰囲気では食べることができない。
清掃時間	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人で多くの仕事をさせられていることが多い。 ○ 清掃用具の片付けをいつも一人でしている。
帰りの会 放課後	<ul style="list-style-type: none"> ○ 帰りの会の反省で他の児童からよく名前が挙がる。 ○ 慌てて下校する。又は用もないのに学校に残っている。 ○ 持ち物がなくなったり、持ち物にいたずらされたりする。

2 いじめた児童のサイン

いじめた児童がいることに気が付いたら、積極的に児童の中に入り、コミュニケーションを増やし、状況を把握する。

場 面	サインと思われる行動等
日常生活全般	○ 教室等で仲間同士で集まり、ひそひそ話をしている。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ ある児童にだけ、周囲が異常に気を遣っている。 ○ 教職員が近づくと、不自然に分散する。 ○ 自己中心的な行動が目立つ。
--	---

資料 4

教室や家庭でのいじめのサイン

1 教室でのサイン

教室内がいじめの場所となることが多い。授業中や休み時間などの児童の様子をよく観察し、サインを見逃さないようにする。

場 面	サインと思われる行動等
日常生活全般	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教室等で特定の仲間同士で集まり、ひそひそ話をしている。 ○ 教師が近づくと、不自然に分散したりする。 ○ 特定の児童にだけ、周囲が異常に気を遣っている。 ○ いやなあだ名が聞こえてくる。 ○ 席替えなどで近くの席になることを嫌がる。 ○ 机を離して座るようにする。 ○ 清掃の時など特定の児童の机や椅子を運ぼうとしない。 ○ 何か起こると特定の児童の名前が出る。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ○ 机や椅子、ロッカー等が乱雑になっている。 ○ 壁等にいたずら、落書きがある。

2 家庭でのサイン

家庭でも多くのサインを出していることがある。児童等の様子を注意深く観察することでサインを発見しやすい。次のようなサインが見られたら、学校との連携が図られるよう保護者に伝えておく。

場 面	サインと思われる行動等
家庭生活全般	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校や友だちのことを話したがいなくなる。 ○ 友だちや学級の不平・不満を口にするが多くなる。 ○ 電話に出たがいなかったり、友だちの誘いを断ったりする。 ○ 遊び友だちが急に変わる。 ○ 朝、起きてこなかったり、学校に行きたくないと言ったりする。 ○ 部屋に閉じこもったり、家から出なかったりする。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ○ 登校時刻になると体調不良を訴える。 ○ 食欲不振を訴える。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習時間が減る。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ○ 理由のはっきりしない衣服の汚れがある。 ○ 理由のはっきりしない打撲や擦り傷がある。 ○ 持ち物がなくなったり、壊されたりする。 ○ 金銭を欲しがようになる。 ○ 家庭の品物や金銭がいなくなる。

資料5

いじめに対する措置（緊急時の組織的対応）



